

都市再生整備計画 事後評価シート

くじゅう
久住地区

令和4年2月

おおいたけん たけたし
大分県 竹田市

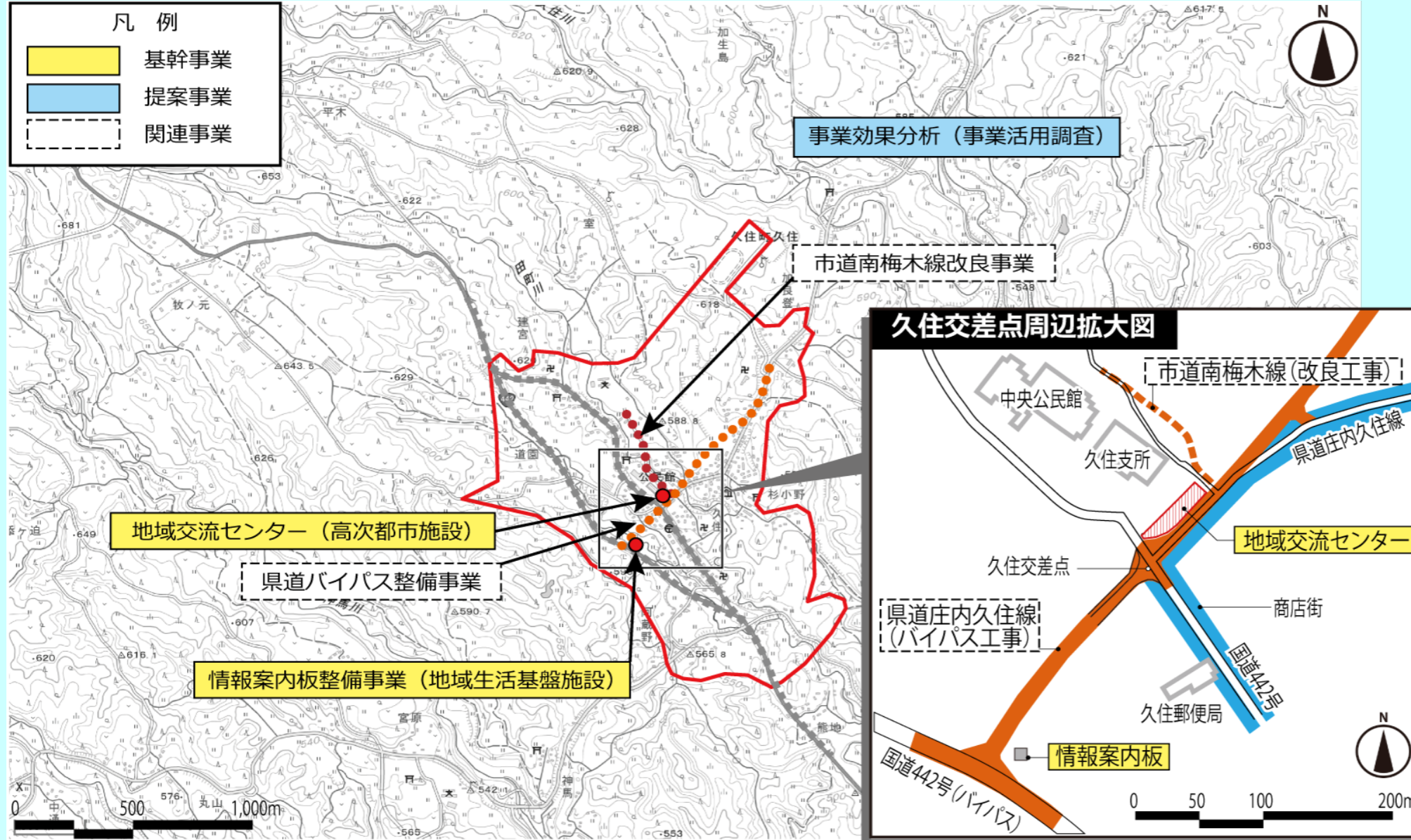
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大分県	市町村名	竹田市	地区名	久住地区	面積	167ha						
交付期間	平成28年度～令和2年度	事後評価実施時期	令和3年9月～令和4年3月	交付対象事業費	106.8	国費率	40.0%						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	(高次都市施設)地域交流センター、(地域生活基盤施設)情報案内板整備事業										
		提案事業	(事業活用調査)事業効果分析										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
			(道路)市道新設整備事業	現在の県道庄内久住線と関連事業県道庄内久住線バイパスを結ぶ路線を計画していたが、県道バイパス整備事業の完成時期の延長に伴い計画期間内の市道新設整備が出来なくなったため事業を中止する。			地域交流センターが完成することによって、事業効果の確認や目標の達成度を確保することが出来るので指標への影響はない。						
			(公園)公園整備事業(新町市民公園(仮称))	関連事業県道庄内久住線バイパス整備事業の完成時期に合わせて県道バイパス整備事業の残地を利用した公園を計画していたが、完成時期の延長に伴い計画期間内の整備が出来なくなったため事業を中止する。									
		(地域生活基盤施設)駐車場整備事業	関連事業県道庄内久住線バイパス整備事業の完成時期に合わせて県道バイパス整備事業の残地を利用した駐車場を計画していたが、完成時期の延長に伴い計画期間内の整備が出来なくなったため事業を中止する。										
		提案事業	-	-			-						
新たに追加した事業	基幹事業	-	-			-							
	提案事業	-	-			-							
交付期間の変更	当初	H28～R2	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし								
	変更	-	-										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期			
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	指標1	地区内来街者数	人/年	1,100,000	H27	1,200,000	R2	H28:660,322 H29:812,170 H30:826,393 R1:848,704	520,931	△	あり	熊本地震や新型コロナなど、予見できない要因が大きく影響したため、目標値を大きく下回った。熊本地震以降の地区内来街者数は上昇傾向にあったことから、新型コロナの終息により、再び上昇に転ずることが期待される。今後、新型コロナの動向を見ながら効果的な活性化策を講じていくことが望まれる。	R4年度
	指標2	地区内のまちづくり活動の増加	回/年	3	H27	15	R2	41	○	あり	地区中心部の久住交差点や久住支所に隣接して整備された地域交流センターは、新たなコミュニティ施設としてまちづくり活動の活性化に寄与していると考えられる。来街者等による利用は、新型コロナの影響等により、施設整備の効果を活かすことができなかった。新型コロナ終息後は、県道バイパスの整備と相まって利用者の増加が期待される。	-	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値	数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期			
	その他の数値指標1	地域交流センターの年間利用回数 目標値 R2:年間180回以上	回	-	-	-	274	-	-	地域交流センターの建設により新たな活動の場が提供されたことから、学童保育、子育て支援活動の場として高頻度に活用されている。	-		
4)定性的な効果発現状況	-												
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング	住民アンケート調査 ・都市再生整備事業の実施結果についての評価 ・今後の久住地区の街づくりについての意見、提案	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった(理由)				・現段階では関連事業である県道バイパス整備事業、市道南梅木線改良事業が未完了であるため、今後これらの関連事業の完了後に、都市再生整備計画事業の効果の確認を行うとともに、今回のアンケートで明らかになった課題への対応を図る。						
		毎年実施・公表される観光動態調査データの把握及びまちづくり活動の開催状況の把握	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった(理由)				・今後もデータの推移を確認し、効果の把握を行う。						
		地域交流センター利用状況の把握(年間利用回数の計測)	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった(理由)				・今後もデータの推移を確認し、効果の把握を行う。 ・計測内容は、利用者の意見を汲み上げる手法(アンケートや目安箱など)の検討を行い、より快適に利用できる運営を図りたい。						
	住民参加プロセス	久住街づくり委員会の開催(商工会、観光協会、自治会関係、学校関係、公募委員等から構成され、概ね構成メンバーを固定して開催)	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった(理由)				・県道バイパス整備事業の事業期間の延長により、当面は県道バイパス整備事業に関する意見交換が中心となることが考えられる。 ・しかし、委員会の趣旨が「久住地区のまちづくり」であることから、残された課題への対応に向けて、今後も組織の継続を図りたい。						
		地域交流センターを活用した子育て支援活動「夢ふうせん」の活動状況の把握	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった(理由)				・「夢ふうせん」は、子育て支援活動の場として、地域に定着しており、子育て世代にとってかけがえのないものとなっている。 ・引き続き、円滑な運営の支援を図りたい。						
	持続的なまちづくり体制の構築	久住街づくり委員会の継続	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった(理由)				・県道バイパス整備事業や地域交流センターの建設など、目に見えるかたちで事業が実現したことから、今後もまちづくりへの取組のきっかけとして継続的に開催したい。 ・委員会の構成メンバーに若者や女性の参加を促進することなどにより、活発な意見交換の場として育てていきたい。						

様式2-2 地区の概要

都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	大目標□自然とともにゆったり生きる“スローライフなまちづくり” 目標1□産業振興と地域活動の活性化による「永続的に維持可能な生活拠点の形成」 目標2□自然と産業を維持するためのコミュニティ強化による「住みやすい安全・安心な町の形成」	地区内来街者数	人	1,100,000	H27	1,200,000	R2	520,931
	地区内のまちづくり活動の増加	回/年	3	H27	15	R2	41	R2



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 商店街の活性化は、各店舗個別の取組では限界があるため、地区全体の統一したまちづくり方針を作成した上で、店舗更新の誘導を図る必要がある。 地域交流センターの利用度が高まった場合は、所要室の利用調整などが必要となるため、適切な管理運営体制の構築が必要である。 地域交流センターは、地区外からの利用者の拡大により、地域住民との交流の活発化が期待されるため、来街者等との交流促進の場の充実などが必要である。 公園、駐車場の整備は、改めて必要性を検証した上で判断したい。
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	<ul style="list-style-type: none"> 県道バイパス沿道では、地区の良質な景観形成と歴史・文化の継承を図るため、沿道建築物の修景、公園や駐車場などの公共施設の整備を図るとともに、市民に親しまれてきた祭りや行事などの再興を促進する。 地域交流センターは、久住地域全体の観光資源を案内・誘導する拠点として、様々な観光情報の提供を進めるとともに、地域住民や来街者に親しまれる交流の場としての活用を図る。 国道沿いに設置した情報案内板については、関係機関が設置予定の道路標識と表示内容などの調整を図る。 市道南梅木線については、県道バイパス整備事業の事業期間の延長により、事後評価段階では未完了である。しかし、アンケート調査や久住街づくり委員会では、整備の必要性についての意見が強く出されたことを踏まえ、早期の整備完了に努める。 県道バイパス整備事業の残地を利用する駐車場や公園の整備事業は、県道バイパスの事業期間の延長により、都市再生整備計画事業から削除したが、駐車場や公園の整備は、残地等の有効利用にとどまらず、様々な整備効果が期待されるため、県道バイパス整備事業の進捗に合わせ、改めて整備の必要性を検討する。